

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	吉原 潤
主な担当科目	芸術特別研究Ⅰ,芸術特別研究Ⅱ,芸術運営演習,卒業研究,芸術運営基礎演習
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	卒業論文を担当した学生を指導し、問題なく卒業できるように指導を行う。芸術特別研究では、依然とコロナ禍にあることを踏まえ、実地での鑑賞を推奨しつつも、基礎疾患等で配慮を要する学生への対応も引き続き心がけたい。インターンシップ関連科目は、本年度で2年目となるので、各学生の希望と適性を考慮しつつ、無事インターンシップが終了するよう指導を行う。その他の科目でも、シラバスで掲げた教育目標を達成できるように努力したい。
2022年の教育に関する自己評価	卒業論文は今年度も履修者1名を無事に提出までこぎつけることができた。芸術特別研究では、本年度はコロナ禍による指定公演の中止もなく、当初予定通りに学生の実地鑑賞が可能になったとともに、コロナ禍での実地鑑賞に代わる代替鑑賞に学生も慣れてきているようであり、要配慮の学生に対しても学修内容は十分に担保できたのではないかと感じる。インターンシップについては、コロナ禍で日程変更などの影響は出たものの、なんとか受け入れ先に送り出し、全員インターンシップを終了することができた。他科目についても教育目標は達成できたと思う。
2022年のFD活動に関する自己評価	日々の業務からはあまり考える余裕のない大局的な観点から、新しい知見が得ることができた。9月のFD研修会は体調不良のため欠席し事後に映像で視聴したが、会場で聴きたい内容であった。アートマネジメント学内組織FD研修会は、日常的にはそれほど関わりのない非常勤の先生方から、学内だけでは得られない視点での意見がうかがえた。芸術特別研究学内組織FD研修会では、研修テーマを踏まえ、書記の立場で議論をリードし、有意義な意見交換ができた。
授業改善のために取り入れた研修内容	芸術特別研究学内組織FD研修会では、ほぼ全学1・2年生の必修という大規模な授業であり、出身やコースが異なる学生に対して、どのようにして鑑賞を通じて視野を広げられるか、その成果をどのようにレポートではかれるかが毎年の議論になっている。それぞれの教員が所属するコースの立場からの意見が出されて、今後の授業運営を考える上で、大いに参考になった。またアートマネジメント学内組織FD研修会では、専任教員以外の立場から見る今の学生像を、非常に興味深く聴いた。

科目名－クラス名

芸術特別研究Ⅰ

曜日時限

他

担当教員

吉原 潤

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
その他	1～	通年	1	評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽を学ぶ際には、自分が演奏する事に関心が集中しがちである。しかし他の演奏家の多様な音楽表現に接することは、自分の音楽の幅を広げるために重要である。また音楽以外の芸術に触れることは、感性を磨き、視野を広げることにつながり、これも重要である。このような観点から本科目は、優れた音楽・芸術表現を鑑賞する機会を提供する。履修者には鑑賞した感想の記入とレポートの作成を課す。これにより文章による表現力の養成も目標とする。

学修成果

- ・優れた演奏・上演、作品の鑑賞により、他ジャンルや多様な文化への知識や理解が深まることで、感性を磨き、視野を広げることができる。
- ・他ジャンルや多様な文化に触れることで、生涯にわたる様々な学習能力が形成できる。
- ・鑑賞後の感想記入およびレポート作成により、文章をまとめる論理的思考力が身につくようになる。

授業展開と内容

第1回	指定演目（A＝音楽公演・1本目）について下調べする。
第2回	指定演目（A＝音楽公演・1本目）を選び、事前学習を行う。
第3回	指定演目（A＝音楽公演・1本目）を鑑賞する。
第4回	指定演目（A＝音楽公演・1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
第5回	指定演目（A＝音楽公演・2本目）について下調べする。
第6回	指定演目（A＝音楽公演・2本目）を選び、事前学習を行う。
第7回	指定演目（A＝音楽公演・2本目）を鑑賞する。
第8回	指定演目（A＝音楽公演・2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
第9回	指定演目（B＝舞台公演）について下調べする。
第10回	指定演目（B＝舞台公演）を選び、事前学習を行う。
第11回	指定演目（B＝舞台公演）を鑑賞する。
第12回	指定演目（B＝舞台公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
第13回	指定演目（C＝日本古典芸能公演）について下調べする。
第14回	指定演目（C＝日本古典芸能公演）を選び、事前学習を行う。
第15回	指定演目（C＝日本古典芸能公演）を鑑賞する。
第16回	指定演目（C＝日本古典芸能公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
第17回	自主的に選んだ演目（1本目）について下調べする。
第18回	自主的に選んだ演目（1本目）を選び、事前学習を行う。
第19回	自主的に選んだ演目（1本目）を鑑賞する。
第20回	自主的に選んだ演目（1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
第21回	自主的に選んだ演目（2本目）について下調べする。
第22回	自主的に選んだ演目（2本目）を選び、事前学習を行う。
第23回	自主的に選んだ演目（2本目）を鑑賞する。
第24回	自主的に選んだ演目（2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
第25回	美術展について下調べする。
第26回	美術展を選び、事前学習を行う。
第27回	美術展を鑑賞する。
第28回	美術展のデータ・感想をポートフォリオに入力する。
第29回	音楽レポートをポートフォリオに入力する。
第30回	美術レポートをポートフォリオに入力する。

履修上の注意

鑑賞した公演および美術展の感想を全て入力することを授業内小テストとして扱い、課題としてレポートを課す。

- ①指定する音楽・舞台・日本古典芸能公演を掲示で確認し、計画的に鑑賞すること。
- ②美術展は本科目の趣旨に沿うものを自分で選ぶこと。
- ③履修の具体的方法やレポートの提出要項等の告知はポータルサイトを通じて行うので、定期的の確認すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・日頃から音楽・舞台・日本古典芸能公演や美術展の開催状況について、各種文献やインターネットで情報を収集し、鑑賞前には演目や美術展の内容を調べておくこと（各回60分）。
- ・感想は鑑賞後早めに入力すること。感想が入力されていない場合は、レポートを受理しないので注意すること。
- ・ポータルサイトで提出されたレポートに対して、コメントを付与することで提出課題に対するフィードバックを行う。

教科書・参考書

特になし。

科目名－クラス名

芸術特別研究Ⅰ

曜日時限

他

担当教員

吉原 潤

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
その他	1～	通年	1		0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽を学ぶ際には、自分が演奏する事に関心が集中しがちである。しかし他の演奏家の多様な音楽表現に接することは、自分の音楽の幅を広げるために重要である。また音楽以外の芸術に触れることは、感性を磨き、視野を広げることにつながり、これも重要である。このような観点から本科目は、優れた音楽・芸術表現を鑑賞する機会を提供する。履修者には鑑賞した感想の記入とレポートの作成を課す。これにより文章による表現力の養成も目標とする。

学修成果

- ・優れた演奏・上演、作品の鑑賞により、他ジャンルや多様な文化への知識や理解が深まることで、感性を磨き、視野を広げることができる。
- ・他ジャンルや多様な文化に触れることで、生涯にわたる様々な学習能力が形成できる。
- ・鑑賞後の感想記入およびレポート作成により、文章をまとめる論理的思考力が身につくようになる。

授業展開と内容

- 第1回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）について下調べする。
- 第2回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）を選び、事前学習を行う。
- 第3回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）を鑑賞する。
- 第4回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第5回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）について下調べする。
- 第6回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）を選び、事前学習を行う。
- 第7回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）を鑑賞する。
- 第8回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第9回 指定演目（B＝舞台公演）について下調べする。
- 第10回 指定演目（B＝舞台公演）を選び、事前学習を行う。
- 第11回 指定演目（B＝舞台公演）を鑑賞する。
- 第12回 指定演目（B＝舞台公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第13回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）について下調べする。
- 第14回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）を選び、事前学習を行う。
- 第15回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）を鑑賞する。
- 第16回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第17回 自主的に選んだ演目（1本目）について下調べする。
- 第18回 自主的に選んだ演目（1本目）を選び、事前学習を行う。
- 第19回 自主的に選んだ演目（1本目）を鑑賞する。
- 第20回 自主的に選んだ演目（1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第21回 自主的に選んだ演目（2本目）について下調べする。
- 第22回 自主的に選んだ演目（2本目）を選び、事前学習を行う。
- 第23回 自主的に選んだ演目（2本目）を鑑賞する。
- 第24回 自主的に選んだ演目（2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第25回 美術展について下調べする。
- 第26回 美術展を選び、事前学習を行う。
- 第27回 美術展を鑑賞する。
- 第28回 美術展のデータ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第29回 音楽レポートをポートフォリオに入力する。
- 第30回 美術レポートをポートフォリオに入力する。

履修上の注意

鑑賞した公演および美術展の感想を全て入力することを授業内小テストとして扱い、課題としてレポートを課す。

- ①指定する音楽・舞台・日本古典芸能公演を掲示で確認し、計画的に鑑賞すること。
- ②美術展は本科目の趣旨に沿うものを自分で選ぶこと。
- ③履修の具体的方法やレポートの提出要項等の告知はポータルサイトを通じて行うので、定期的の確認すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・日頃から音楽・舞台・日本古典芸能公演や美術展の開催状況について、各種文献やインターネットで情報を収集し、鑑賞前には演目や美術展の内容を調べておくこと（各回60分）。
- ・感想は鑑賞後早めに入力すること。感想が入力されていない場合は、レポートを受理しないので注意すること。
- ・ポータルサイトで提出されたレポートに対して、コメントを付与することで提出課題に対するフィードバックを行う。

教科書・参考書

特になし。

科目名－クラス名

芸術特別研究Ⅱ

曜日時限

他

担当教員

吉原 潤

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	
その他	2～	通年	1	評価割合	0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽を学ぶ際には、自分が演奏する事に関心が集中しがちである。しかし他の演奏家の多様な音楽表現に接することは、自分の音楽の幅を広げるために重要である。また音楽以外の芸術に触れることは、感性を磨き、視野を広げることにつながり、これも重要である。このような観点から本科目は、優れた音楽・芸術表現を鑑賞する機会を提供する。履修者には鑑賞した感想の記入とレポートの作成を課す。これにより文章による表現力の養成も目標とする。

学修成果

- ・優れた演奏・上演、作品の鑑賞により、他ジャンルや多様な文化への知識や理解が深まることで、感性を磨き、視野を広げることができる。
- ・他ジャンルや多様な文化に触れることで、生涯にわたる様々な学習能力が形成できる。
- ・鑑賞後の感想記入およびレポート作成により、文章をまとめる論理的思考力が身につくようになる。

授業展開と内容

- 第1回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）について下調べする。
- 第2回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）を選び、事前学習を行う。
- 第3回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）を鑑賞する。
- 第4回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第5回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）について下調べする。
- 第6回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）を選び、事前学習を行う。
- 第7回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）を鑑賞する。
- 第8回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第9回 指定演目（B＝舞台公演）について下調べする。
- 第10回 指定演目（B＝舞台公演）を選び、事前学習を行う。
- 第11回 指定演目（B＝舞台公演）を鑑賞する。
- 第12回 指定演目（B＝舞台公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第13回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）について下調べする。
- 第14回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）を選び、事前学習を行う。
- 第15回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）を鑑賞する。
- 第16回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第17回 自主的に選んだ演目（1本目）について下調べする。
- 第18回 自主的に選んだ演目（1本目）を選び、事前学習を行う。
- 第19回 自主的に選んだ演目（1本目）を鑑賞する。
- 第20回 自主的に選んだ演目（1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第21回 自主的に選んだ演目（2本目）について下調べする。
- 第22回 自主的に選んだ演目（2本目）を選び、事前学習を行う。
- 第23回 自主的に選んだ演目（2本目）を鑑賞する。
- 第24回 自主的に選んだ演目（2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第25回 美術展について下調べする。
- 第26回 美術展を選び、事前学習を行う。
- 第27回 美術展を鑑賞する。
- 第28回 美術展のデータ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第29回 音楽レポートをポートフォリオに入力する。
- 第30回 美術レポートをポートフォリオに入力する。

履修上の注意

鑑賞した公演および美術展の感想を全て入力することを授業内小テストとして扱い、課題としてレポートを課す。

- ①指定する音楽・舞台・日本古典芸能公演を掲示で確認し、計画的に鑑賞すること。
- ②美術展は本科目の趣旨に沿うものを自分で選ぶこと。
- ③履修の具体的方法やレポートの提出要項等の告知はポータルサイトを通じて行うので、定期的の確認すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・日頃から音楽・舞台・日本古典芸能公演や美術展の開催状況について、各種文献やインターネットで情報を収集し、鑑賞前には演目や美術展の内容を調べておくこと（各回60分）。
- ・感想は鑑賞後早めに入力すること。感想が入力されていない場合は、レポートを受理しないので注意すること。
- ・ポータルサイトで提出されたレポートに対して、コメントを付与することで提出課題に対するフィードバックを行う。

教科書・参考書

特になし。

科目名－クラス名

芸術特別研究 II

曜日時限

他

担当教員

吉原 潤

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
					筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
その他	2～	通年	1		0	50	0	0	50	100

教育到達目標と概要

音楽を学ぶ際には、自分が演奏する事に関心が集中しがちである。しかし他の演奏家の多様な音楽表現に接することは、自分の音楽の幅を広げるために重要である。また音楽以外の芸術に触れることは、感性を磨き、視野を広げることにつながり、これも重要である。このような観点から本科目は、優れた音楽・芸術表現を鑑賞する機会を提供する。履修者には鑑賞した感想の記入とレポートの作成を課す。これにより文章による表現力の養成も目標とする。

学修成果

- ・優れた演奏・上演、作品の鑑賞により、他ジャンルや多様な文化への知識や理解が深まることで、感性を磨き、視野を広げることができる。
- ・他ジャンルや多様な文化に触れることで、生涯にわたる様々な学習能力が形成できる。
- ・鑑賞後の感想記入およびレポート作成により、文章をまとめる論理的思考力が身につくようになる。

授業展開と内容

- 第1回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）について下調べする。
- 第2回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）を選び、事前学習を行う。
- 第3回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）を鑑賞する。
- 第4回 指定演目（A＝音楽公演・1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第5回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）について下調べする。
- 第6回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）を選び、事前学習を行う。
- 第7回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）を鑑賞する。
- 第8回 指定演目（A＝音楽公演・2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第9回 指定演目（B＝舞台公演）について下調べする。
- 第10回 指定演目（B＝舞台公演）を選び、事前学習を行う。
- 第11回 指定演目（B＝舞台公演）を鑑賞する。
- 第12回 指定演目（B＝舞台公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第13回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）について下調べする。
- 第14回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）を選び、事前学習を行う。
- 第15回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）を鑑賞する。
- 第16回 指定演目（C＝日本古典芸能公演）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第17回 自主的に選んだ演目（1本目）について下調べする。
- 第18回 自主的に選んだ演目（1本目）を選び、事前学習を行う。
- 第19回 自主的に選んだ演目（1本目）を鑑賞する。
- 第20回 自主的に選んだ演目（1本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第21回 自主的に選んだ演目（2本目）について下調べする。
- 第22回 自主的に選んだ演目（2本目）を選び、事前学習を行う。
- 第23回 自主的に選んだ演目（2本目）を鑑賞する。
- 第24回 自主的に選んだ演目（2本目）の公演データ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第25回 美術展について下調べする。
- 第26回 美術展を選び、事前学習を行う。
- 第27回 美術展を鑑賞する。
- 第28回 美術展のデータ・感想をポートフォリオに入力する。
- 第29回 音楽レポートをポートフォリオに入力する。
- 第30回 美術レポートをポートフォリオに入力する。

履修上の注意

鑑賞した公演および美術展の感想を全て入力することを授業内小テストとして扱い、課題としてレポートを課す。

- ①指定する音楽・舞台・日本古典芸能公演を掲示で確認し、計画的に鑑賞すること。
- ②美術展は本科目の趣旨に沿うものを自分で選ぶこと。
- ③履修の具体的方法やレポートの提出要項等の告知はポータルサイトを通じて行うので、定期的の確認すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・日頃から音楽・舞台・日本古典芸能公演や美術展の開催状況について、各種文献やインターネットで情報を収集し、鑑賞前には演目や美術展の内容を調べておくこと（各回60分）。
- ・感想は鑑賞後早めに入力すること。感想が入力されていない場合は、レポートを受理しないので注意すること。
- ・ポータルサイトで提出されたレポートに対して、コメントを付与することで提出課題に対するフィードバックを行う。

教科書・参考書

特になし。

科目名－クラス名

芸術運営演習

F

曜日時限

火 1時限

担当教員

吉原 潤

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	3～	通年	2	0	50	0	50	0	100

教育到達目標と概要

翌年度の卒業研究・論文執筆に向けて、研究のテーマ・手法について知識と理解を深めることを目標とする。

ディスカッション等により論理的思考とプレゼンテーションの能力を養い、他の履修者と研究上の関心を共有する。

クラス毎に履修者の報告をもとにディスカッションをおこなうほか、他の履修者や上級生とグループ研究やフィールドワークなどをおこなうことがある。

履修者は年度末にまとめレポート（4,000字程度）を作成し提出するほか、報告会で各クラスの活動の概要と成果を報告する。これらにより成績評価をおこなう。

学修成果

- ・研究のテーマ・手法についての知識・理解を深め、論理的思考ができるようになる。
- ・効果的なプレゼンテーションと的確な文章表現ができるようになる。
- ・他者と協働し、スムーズなコミュニケーションができるようになる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（全体）
第2回	関心ある研究課題について報告し、ディスカッションする
第3回	他の履修者の関心ある研究課題についての報告を聞き、ディスカッションする
第4回	関心ある研究課題について情報収集し、それにもとづきディスカッションする
第5回	他の履修者が収集した情報に関する報告を聞き、ディスカッションする
第6回	関心ある研究課題の周辺領域について情報収集し、それにもとづきディスカッションする
第7回	他の履修者が収集した周辺領域についての情報に関する報告を聞き、ディスカッションする
第8回	研究課題を絞り込み、それにもとづきディスカッションする
第9回	他の履修者が絞り込んだ研究課題についての報告を聞き、ディスカッションする
第10回	研究手法について報告し、ディスカッションする
第11回	他の履修者の研究手法についての報告を聞き、ディスカッションする
第12回	絞りこんだ課題・手法により文献調査を実施し、成果を報告、ディスカッションする
第13回	他の履修者の文献調査の成果の報告を聞き、ディスカッションする
第14回	研究課題・手法の見直しについてディスカッションする
第15回	前期の研究成果を報告し、夏休み中の研究計画についてディスカッションする
第16回	夏休み中の研究成果を報告し、ディスカッションする
第17回	他の履修者の夏休み中の研究成果の報告を聞き、ディスカッションする
第18回	後期の研究計画についてディスカッションする
第19回	研究計画に沿って、研究・フィールドワークを実施し、成果を報告、ディスカッションする
第20回	他の履修者の研究・フィールドワークの成果の報告を聞き、ディスカッションする
第21回	ここまでの研究成果をまとめて報告し、ディスカッションする
第22回	研究計画の見直しについて報告し、ディスカッションする
第23回	見直した研究計画に沿って、研究・フィールドワークを実施し、成果を報告、ディスカッションする
第24回	他の履修者の研究・フィールドワークの成果の報告を聞き、ディスカッションする
第25回	一年間の研究成果を報告し、ディスカッションする
第26回	他の履修者の一年間の研究成果の報告を聞き、ディスカッションする
第27回	レポートのテーマ、章立てについて報告し、ディスカッションする
第28回	レポートの内容について報告し、ディスカッションする
第29回	報告会に向けて準備する
第30回	報告会にて一年間の研究成果を報告する（詳細は別途指示する）

履修上の注意

- ・翌年度の卒業研究の基礎を固める科目であるので、履修者は主体的に取り組むこと。
- ・授業時間外での学修に十分な時間をかけること。
- ・担当教員と密に連絡をとり、参考書や調査対象等についてアドバイスを受けること。
- ・提出物等に関する通知・連絡に注意すること（締め切りを過ぎた提出物は受け付けない）。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・授業では、履修者による報告をもとにディスカッション（フィードバック）するので、授業時間外に各自の関心に応じて情報収集・整理などを進めて、報告の準備をすること（各回60分以上）。

教科書・参考書

参考書：外山滋比古『思考の整理学』（ちくま文庫、1986年）。酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』（共立出版、2007年）。小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009年）。その他、各自の研究テーマに応じて指示する。

科目名－クラス名

卒業研究

G

曜日時限

火 2時限

担当教員

吉原 潤

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験 授業内小テスト	合計	
				定期試験 評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
演習	4～	通年	2	評価割合	0	0	0	100	0	100

教育到達目標と概要

本科目ではこれまでの学修で身に着けた知識・理解や技能をもとに総合的な学修をおこない、問題発見・解決に必要な論理的・創造的思考力とプレゼンテーション能力を養うことを目標とする。

履修者は担当教員とのディスカッションにより研究のテーマ・手法・計画を決め、それに沿って研究を進める。

他のクラス・学年とのグループ・ディスカッションやフィールドワークなどをおこなうことがある。

学修成果

- ・研究のテーマ・手法についての知識・理解を深め、論理的思考ができるようになる。
- ・効果的なプレゼンテーション的的確な文章表現ができるようになる。
- ・問題発見・解決に必要な創造的思考力ができるようになる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス（全体）
第2回	問題意識についてディスカッションする
第3回	研究テーマについてディスカッションする
第4回	研究の手法についてディスカッションする
第5回	収集する資料、参照する先行研究の範囲についてディスカッションする
第6回	NDLサーチを用いて収集した資料・先行研究についてディスカッションする
第7回	CiNiiを用いて収集した資料・先行研究についてディスカッションする
第8回	その他のデジタル・アーカイブを用いて収集した資料・先行研究についてディスカッションする
第9回	先行研究から抽出できる課題を整理する
第10回	中間報告に向けて、より具体的な研究課題についてディスカッションする
第11回	中間報告に向けて、より具体的な研究手法についてディスカッションする
第12回	中間報告に向けて、先行研究のまとめ方についてディスカッションする
第13回	中間報告に向けて、論文の章立てについてディスカッションする
第14回	中間発表会の予行をおこなう
第15回	以後の研究計画についてディスカッションする
第16回	卒業論文の序論についてディスカッションする
第17回	卒業論文の第1章についてディスカッションする
第18回	卒業論文の第2章についてディスカッションする
第19回	卒業論文の第3章についてディスカッションする
第20回	卒業論文の結論についてディスカッションする
第21回	これまでに執筆した論文の改訂に向けてディスカッションする
第22回	改訂した第1章についてディスカッションする
第23回	改訂した第2章についてディスカッションする
第24回	改訂した第3章についてディスカッションする
第25回	改訂した結論についてディスカッションする
第26回	改訂した序論についてディスカッションする
第27回	注、参考文献、要旨についてディスカッションする
第28回	最終報告のスライドについてディスカッションする
第29回	最終報告の原稿についてディスカッションする
第30回	最終報告の予行をおこなう

履修上の注意

- ・学修の成果により評価する（卒業論文、要旨、発表・質疑応答については別途「卒業論文」にて評価する）。
- ・履修者は自らの関心に即して、主体的・計画的に取り組むこと。授業時間外での学修に十分な時間をかけること。担当教員と密に連絡をとり、参考書や調査対象等についてアドバイスを受けること。
- ・提出物等に関する通知・連絡に注意すること（締め切りを過ぎた提出物は受け取らない）。
- ・上記の授業展開は本論3章立てを想定して示したが、それに限るものではない。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

- ・授業では、履修者による報告をもとにディスカッション（フィードバック）するので、授業時間外に文献調査やデータ収集・分析、考察などを進めて、報告の準備をすること（各回60分以上）。

教科書・参考書

アートマネジメントコース「卒業・修士論文作成の手引き」を配付する。

参考書は、酒井聡樹『これからレポート・卒論を書く若者のために』（共立出版、2007年）、小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2009年）などの他、各自の研究テーマに応じて指示する。

科目名－クラス名

芸術運営基礎演習

曜日時限

月 2時限

担当教員

吉原 潤

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
演習	2～	後期	1	0	40	0	30	30	100

教育到達目標と概要

本科目は、音楽芸術運営学科アートマネジメントコースの2年次学生を主たる対象とし、西洋音楽史に沿ったトピックを中心に、音楽あるいはこれを取り巻く社会に関する事柄について興味・関心を深め、これらについて主体的に研究する姿勢を身に付けることを目標とする。授業は、指導教員のもと各自研究テーマを設定し、ゼミ（演習）形式により行う。

学修成果

西洋音楽史を中心に、音楽あるいはこれを取り巻く文化・社会に関する事柄について、自ら文献を読み、資料を収集し、これらを取りまとめることにより、専門知識、情報活用能力および実践的活動能力を得ることができる。加えて、研究発表とレポートの作成を通じて、論理的思考力、課題解決力を身に付けることができる。

授業展開と内容

第1回	ガイダンス：授業の目的、進め方について説明する。
第2回	研究を行うにあたって：研究の範囲、テーマ設定のしかた、研究の方法等について解説する。
第3回	研究テーマ発表：各自、研究テーマを考え、発表する。（授業内小テスト①）
第4回	研究テーマへのアドバイス：研究テーマをさらに詰めていき、ポイントをアドバイスする。
第5回	研究計画の発表：研究計画を発表する。これに対し、資料収集の方法や研究の進め方をアドバイスする。（授業内小テスト②）
第6回	学生のテーマに沿った関連トピックの講義①：参考文献の探し方（特別講師）
第7回	研究・調査活動：各自、研究・調査を進める。
第8回	学生のテーマに沿った関連トピックの講義②：研究のまとめ方
第9回	研究・調査活動：各自、研究・調査を進めるとともに、中間発表の準備をする。
第10回	研究中間発表：これまでの研究の中間発表を行う。（授業内小テスト③）
第11回	レポートに向けて：レポート作成に向け、各自の研究の進捗状況に対しアドバイスする。
第12回	研究・調査活動：中間発表、前回のアドバイスを踏まえて、各自の研究・調査を進める。
第13回	研究発表準備：各自、研究をとりまとめ、発表の準備をする。
第14回	研究発表（前半）：研究発表を行い、学生同士で意見交換する。
第15回	研究発表（後半）：研究発表を行い、学生同士で意見交換する。
第16回	
第17回	
第18回	
第19回	
第20回	
第21回	
第22回	
第23回	
第24回	
第25回	
第26回	
第27回	
第28回	
第29回	
第30回	

履修上の注意

- ・14・15回目の研究発表を成果発表とし、授業終了後のレポートを課題提出として評価の対象とする。さらに、3回目、5回目、10回目の発表を授業内小テストとして扱う。
- ・履修にあたっては、自分が興味のある音楽的な事柄について、考えておくこと。

■ **授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法**

- ・ 授業内において研究テーマ決定後は、授業外の時間も使い、各自地道に研究を進め、発表の準備も行うこと（各回60分）。文献資料を読むだけでなく、関連する楽曲を、音源や生の演奏で実際に聴くこと。
 - ・ 中間発表および研究発表に際し、教員が内容についてそれぞれコメントすることでフィードバックを行う。
-

■ **教科書・参考書**

必要に応じて資料を配付する。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2050 教員名：吉原 潤

1) 評価結果に対する所見

「芸術運営基礎演習」では、Q8の予習・復習の有無を除いては、科目への評価は基本的に全体平均を超えており、高い評価が得られている。

2) 要望への対応・改善方策

アンケートにおいて「自由記述」がないため、対応・改善方策について特に記すべき事項はないが、今後も高い評価を得られるよう、授業を実施していきたい。

3) 今後の課題

おおむね科目平均が全体平均を上回っているが、Q8の授業の予習・復習についてのみ、全体平均を下回っている。履修者各人の調査・研究が主体となる授業であるため、予習・復習を自主的に行えるように方策を考えたい。

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

複数教員担当科目

【インターンシップ①】

教員名：武濤 京子／仁科 岡彦／星野 友子／山本 幸治／吉原 潤

1) 評価結果に対する所見

授業への評価は、2設問を除くと、全体平均を上回る回答となった。2020・2021年はコロナ禍で、学生が希望する研修内容を実施することが難しかったが、2022年はインターンシップ先の受け入れ状況も改善して、例年通りに近い形で実施できたことによるものではないか。

2) 要望への対応・改善方策

アンケートにおいて「自由記述」がないため、対応・改善方策について特に記すべき事項はないが、引き続き高い評価を得られるよう、授業を実施していきたい。

3) 今後の課題

Q4の出席状況とQ8の予習・復習に関する設問のみが、全体平均を下回る形となった。本科目は、インターンシップに参加することが大きな柱ではあるものの、授業内において、先方への提出書類の作成、事前のマナー講座、参加後の報告・発表にも力を入れている。これらの日常の授業への出席、予習・復習の実施を指導していきたい。

以 上

2022年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2050 教員名：吉原 潤

【芸術特別研究Ⅰ・Ⅱ】

教員名：五十嵐 麻利江／岩部 純子／小笠 恵美子／尾崎 有飛／岸本 智典／北村 篤司／香西 史子／後藤 正孝／小峰 智子／酒井 健太郎／白川 ゆう子／鈴木 とも恵／寺崎 秀臣／中島 大之／西海 幹樹／野呂 香／服部 孝也／彦坂 眞一郎／廣田 美穂／藤田 真頼／藤原 海考／森 篤史／吉原 潤（芸術特別研究分科会）

1) 評価結果に対する所見

授業へのトータルの評価としては、Q9「自分はこの授業を受けて、ものの見方や考え方が広がった」の評価は比較的高くなっていることから、本科目の目的である、多様な音楽表現に接し、あるいは音楽以外の芸術にも知識や理解を深め、視野を広げることに成功していると考えられる。一方、最も評価が低いQ7「授業は学生とのコミュニケーションに努めながら進められている」の評価の低さについては、本科目が対面の授業形態ではなく、オンラインでのやり取りのみで完結する形になっていることに起因していると思われる。

2) 要望への対応・改善方策

要望は整理すると、①指定公演の内容、②履修システムの理解についての2点と考えられる。科目としての必修科目「芸術特別研究」を、今年度より選択必修科目の「芸術鑑賞」として改編した際に、指定公演の内容および履修システムについて見直しを行っている。

3) 今後の課題

2) で記載の通り、2023年度に科目の改編を行っているため、初年度の授業評価アンケートの結果から課題を抽出して、改善を図りたい。

以上